
9 品目別調査結果 ピーマン

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識
6. 調査のまとめ

1. 概況

381

調査結果概要 (1/3)

1. 各取引段階の“量”の変化

出荷段階

- 福島県産夏秋ピーマンの作付面積と出荷量は、震災以降減少傾向にあったが、作付面積は平成28年度、出荷量は平成26年度以降は概ね横ばいとなっている。令和6年度は、それぞれ平成22年度の70.9%、74.5%となっている。

卸売段階

- 福島県産ピーマンは、主に首都圏で取り扱われている。非常に少量であるが関西圏にも流通している。北海道や名古屋といった地域にはほぼ流通していない。
- 東京都中央卸売市場において、福島県産ピーマンは主に7月～10月に出荷されており、市場シェアは3位となっている。特に、8月における市場シェアは年間で最大であり、16%を占めている。

382

2. 各取引段階の“価格”の変化

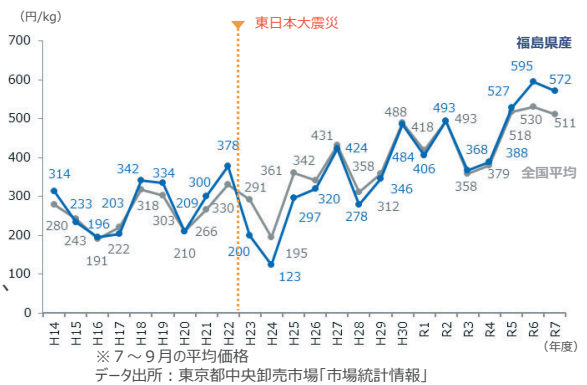
市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの価格は、震災後に全国平均を下回るようになった。
- 震災後4年間は、明確に全国平均よりも安い価格で推移していた。
- 平成29年度以降、全国平均に近い水準で推移しており、令和3年度以降は全国平均を上回っている。

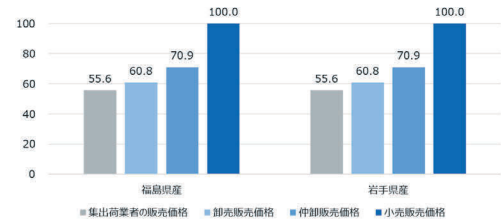
個別事例における状況

- 首都圏で福島県産ピーマンと岩手県産ピーマンを併売する小売業者に至る流通経路を対象に、流通段階ごとの取引価格を調査した。
- 福島県産と岩手県産の価格形成を比較すると、取引価格はすべての段階で同一であった。
- 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定していた。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



ピーマンの価格形成事例



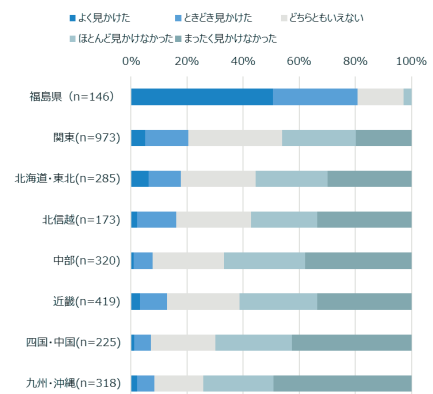
※数値は小売価格を100とした指数。
※福島県産、岩手県産ともに、本取引における一般的な取引価格として聴取した値。

3. 福島県産品に対する認識

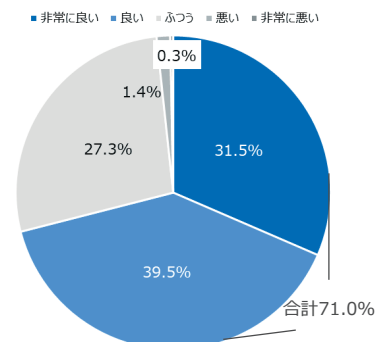
消費者への調査

- 福島県産ピーマンを店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が最も高く、他の地域では10%に満たない。
 - 福島県産ピーマンを購入したことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では7.2%であった。
- 福島県産ピーマンの購入者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が71.0%であった。

福島県産ピーマンを店頭で見かけたか



福島県産ピーマン購入者の評価 (n=286)



2. 調査実施概要

385

調査の全体像

概要調査として政府統計等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産ピーマンの購入実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の福島県産品の購入実態や評価を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングにより取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。 競合県産品についても調査の上、比較分析を行う。
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 政府統計 卸売市場データ 農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の消費者（4,000人） 	<ul style="list-style-type: none"> 袋入りのピーマン 福島県産以外に他県産も扱う事業者を対象に含める。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産ピーマンの出荷量 卸売市場における取扱量と、競合県産品と比較したシェアの推移 卸売市場における取引価格の競合県産品との比較 	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産ピーマンを店頭で見かけた経験 福島県産ピーマンの購入経験 ピーマン購入時の重視点 福島県産ピーマンの評価 	<ul style="list-style-type: none"> 流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	<p>各取引段階の“量”の変化</p> <p>各取引段階の“価格”の変化</p>	<p>福島県産品に対する認識</p>	<p>各取引段階の“価格”の変化</p>

386

各データを収集・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査
使用データ

- 農林水産省「野菜生産出荷統計」
- 首都圏・関西圏・名古屋・札幌の各市場の統計データ
- 農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

アンケート
調査

- 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
 - 4,000件を回収し、分析を実施した。

追跡調査

- 首都圏の小売業者へ流通するルート：2ルート
 - うち1ルートでは競合県産品の価格データも収集。
- 福島県内の小売業者へ流通するルート：1ルート

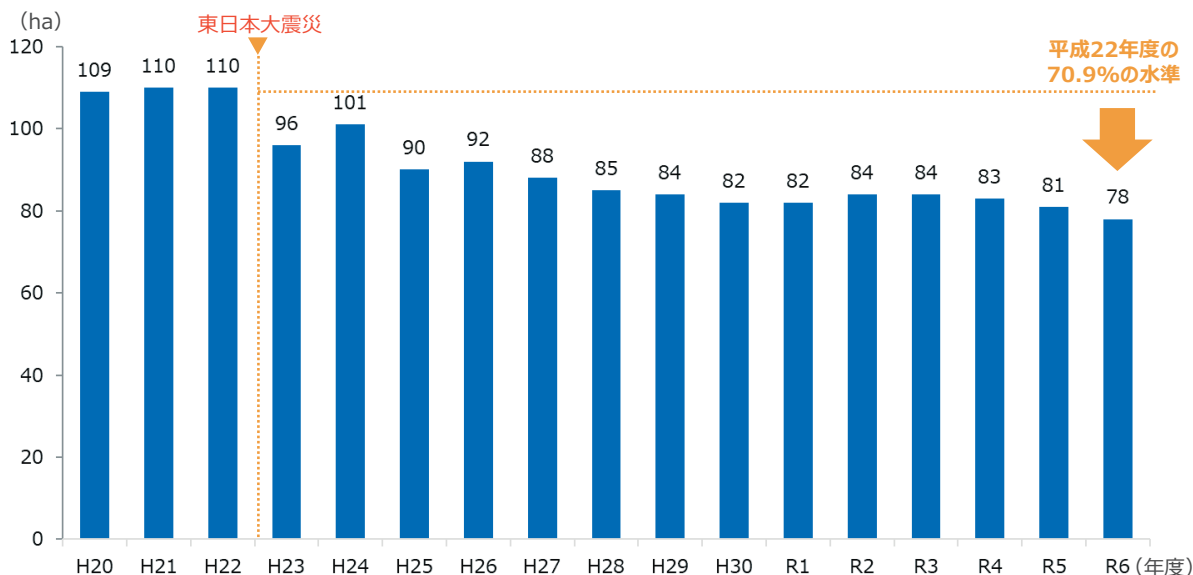
※追跡調査では個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から価格データを受領。 387

3. 各取引段階の“量”の変化

福島県産夏秋ピーマンの作付面積の推移

福島県産夏秋ピーマンの作付面積は、震災直後に約10%減少した。その後、一時的に増加した年があったものの、全体的に微減した後、平成28年度以降は、概ね横ばいで推移している。令和6年度の作付面積は、平成22年度の70.9%となっている。

福島県産夏秋ピーマンの作付面積の推移



データ出所：農林水産省「野菜生産出荷統計」

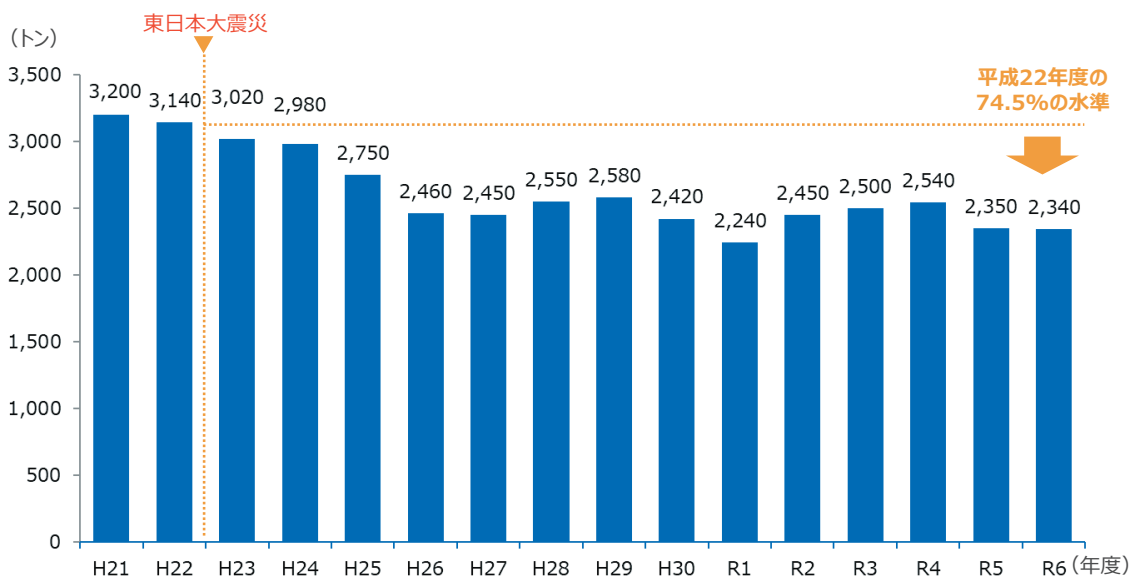
※夏秋ピーマン：主たる収穫・出荷期間が6月～10月

389

福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移

震災後、福島県産夏秋ピーマンの出荷量は減少傾向にあったが、平成26年度以降は、概ね横ばいで推移している。令和6年度の出荷量は、平成22年度の74.5%となっている。

福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移



データ出所：農林水産省「野菜生産出荷統計」

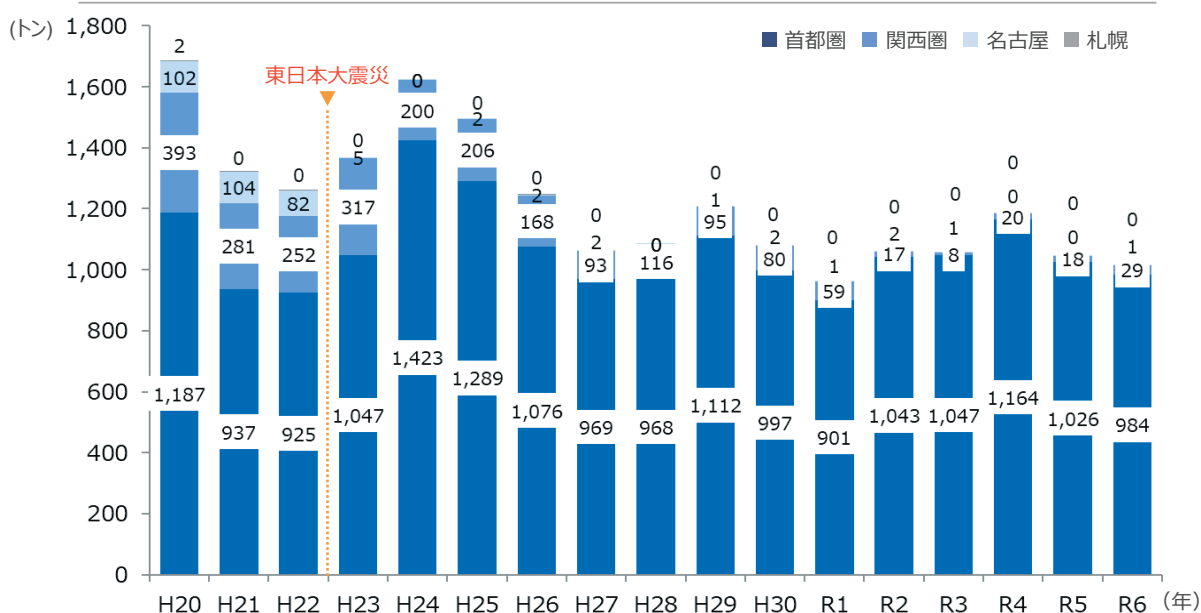
※夏秋ピーマン：主たる収穫・出荷期間が6月～10月

390

各市場における福島県産ピーマンの取扱量の推移

福島県産ピーマンは、主要地域の卸売市場の中では、主に首都圏で取り扱われており、少量ではあるが関西圏にも流通している。

各市場における福島県産ピーマンの取扱量の推移



データ出所：各卸売市場の統計データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

※数値ラベルは、下から首都圏、関西圏、名古屋、札幌の取扱量を表す。

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和6年産・首都圏)

東京都中央卸売市場において、7月～10月は福島県産ピーマンのシェアが3位だったが、その他の月での取扱いは僅かであった。横浜市中央卸売市場では、年間を通して福島県産ピーマンの取扱いはほとんど見られなかった。

各市場における産地リレー(令和6年産)

東京都中央卸売市場

各月で市場シェア1位～3位の順に色付け

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	16%	12%	5%	1%	0%	940
茨城	12%	26%	41%	51%	67%	76%	49%	17%	36%	55%	59%	27%	10,787
宮崎	53%	41%	33%	25%	15%	7%	1%	0%	0%	0%	15%	44%	4,147
岩手	0%	0%	0%	0%	0%	6%	35%	56%	42%	28%	6%	0%	3,810
高知	16%	15%	12%	12%	10%	9%	2%	1%	0%	4%	10%	15%	1,988
鹿児島	17%	16%	13%	10%	7%	1%	0%	0%	0%	1%	7%	14%	1,518
総量	1,509	1,588	1,919	2,413	2,681	2,340	2,004	2,452	2,297	1,932	1,511	1,460	

横浜市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	4%	4%	1%	0%	0%	44
茨城	9%	11%	23%	30%	47%	60%	29%	7%	17%	29%	43%	27%	1,075
岩手	0%	0%	0%	0%	0%	6%	34%	62%	52%	40%	11%	0%	742
高知	33%	32%	31%	29%	21%	23%	7%	1%	1%	7%	21%	32%	683
鹿児島	38%	39%	32%	32%	23%	1%	0%	0%	0%	0%	11%	29%	567
青森	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	16%	16%	12%	1%	0%	204
総量	224	226	273	354	407	356	364	414	363	312	236	249	

データ出所：各卸売市場の統計データ

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和6年産・関西圏)

大阪市中央卸売市場、京都市中央卸売市場のいずれにおいても、福島県産ピーマンの取扱いは、年間を通して僅かであった。

各市場における産地リレー(令和6年産)

大阪市中央卸売市場		各月で市場シェア1位～3位の順に												
		■ ■ ■ で色付け												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	11
宮崎		51%	53%	51%	49%	45%	39%	11%	2%	1%	8%	31%	56%	1,755
青森		0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	49%	43%	30%	5%	0%	966
高知		28%	26%	21%	23%	21%	17%	6%	1%	1%	11%	23%	28%	899
茨城		0%	1%	11%	13%	16%	21%	11%	3%	16%	18%	14%	0%	687
鹿児島		20%	18%	14%	13%	13%	2%	0%	0%	0%	2%	18%	14%	470
総量		321	321	399	497	589	655	582	742	665	520	363	373	

京都市中央卸売市場		各月で市場シェア1位～3位の順に												
		■ ■ ■ で色付け												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	3%	1%	0%	0%	18
宮崎		58%	50%	50%	46%	38%	25%	4%	3%	1%	8%	27%	52%	890
大分		0%	0%	0%	0%	6%	41%	69%	37%	35%	36%	19%	0%	762
高知		32%	34%	30%	28%	23%	12%	2%	1%	1%	10%	22%	32%	552
茨城		0%	0%	12%	17%	25%	19%	6%	8%	30%	24%	21%	5%	487
韓国		4%	2%	3%	3%	2%	3%	5%	6%	3%	4%	4%	5%	108
総量		175	172	227	281	358	485	320	279	243	259	219	193	

データ出所：各卸売市場の統計データ

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

393

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和6年産・その他)

名古屋市中央卸売市場では、福島県産ピーマンの取扱いは年間を通してほとんど見られなかった。札幌市中央卸売市場では、年間を通して見られなかった。

各市場における産地リレー(令和6年産)

名古屋市中央卸売市場		各月で市場シェア1位～3位の順に												
		■ ■ ■ で色付け												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
鹿児島		68%	63%	60%	50%	41%	10%	0%	0%	0%	5%	36%	51%	1,560
茨城		0%	0%	2%	20%	28%	42%	33%	8%	30%	45%	35%	2%	1,135
宮崎		17%	22%	25%	19%	21%	33%	12%	4%	2%	4%	16%	35%	913
高知		14%	15%	13%	11%	11%	12%	6%	1%	0%	4%	9%	12%	462
北海道		0%	0%	0%	0%	0%	2%	24%	31%	24%	16%	1%	0%	422
総量		322	315	368	536	603	562	407	447	414	418	377	374	

札幌市中央卸売市場		各月で市場シェア1位～3位の順に												
		■ ■ ■ で色付け												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
北海道		0%	0%	0%	0%	1%	63%	97%	100%	100%	98%	45%	0%	1,062
宮崎		88%	88%	84%	75%	65%	22%	1%	0%	0%	1%	44%	80%	687
茨城		1%	0%	4%	15%	26%	12%	2%	0%	0%	2%	3%	3%	104
高知		9%	9%	10%	8%	7%	2%	0%	0%	0%	0%	7%	16%	87
鹿児島		2%	2%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	2%	11
総量		122	111	109	151	139	210	247	260	206	183	100	116	

データ出所：各卸売市場の統計データ

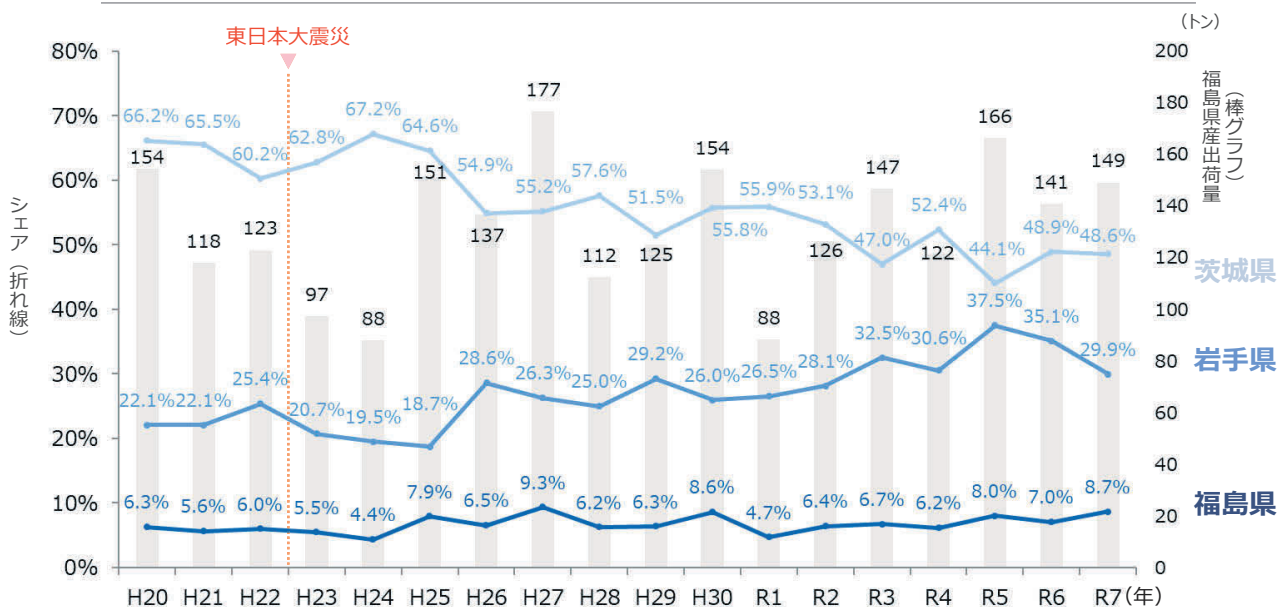
※福島県及び年間取扱量上位道県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

394

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンのシェアの推移(7月)

東京都中央卸売市場における7月の福島県産ピーマンのシェアは、震災前から大きく変動しておらず、7%前後で推移している。他県産について、平成22年と比べ令和7年は、茨城県産のシェアが48.6%と減少したが、岩手県産のシェアは29.9%へやや拡大した。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(7月)

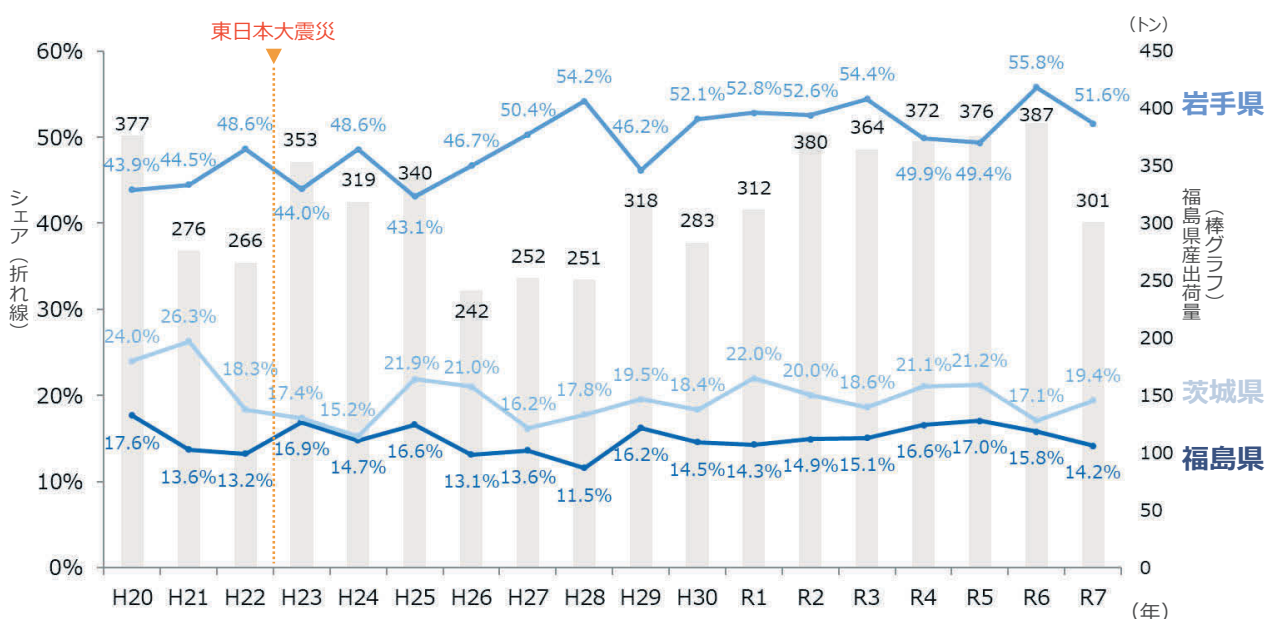


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンのシェアの推移(8月)

東京都中央卸売市場における8月の福島県産ピーマンのシェアは、震災前から大きく変動しておらず、15%前後で推移している。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(8月)

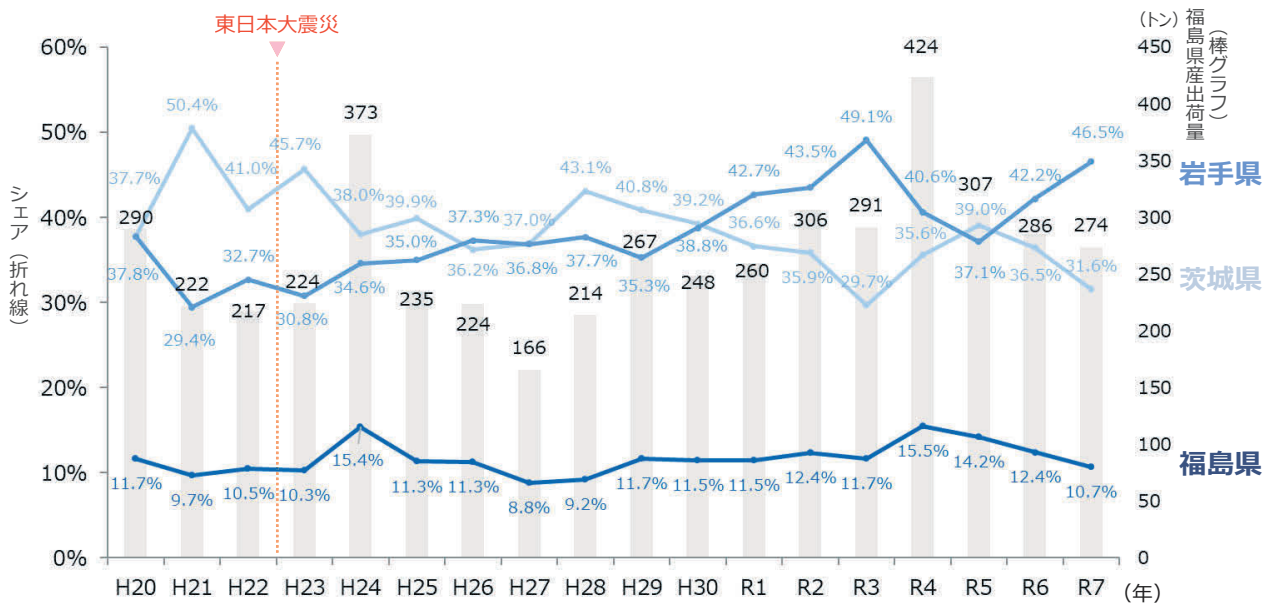


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンのシェアの推移(9月)

東京都中央卸売市場における9月の福島県産ピーマンのシェアは、震災以前より12%前後で推移しているが、令和4年以降、減少傾向にある。平成22年と比べ令和7年は、茨城県産のシェアが31.6%と減少した一方、岩手県産のシェアが46.5%へ拡大した。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(9月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

397

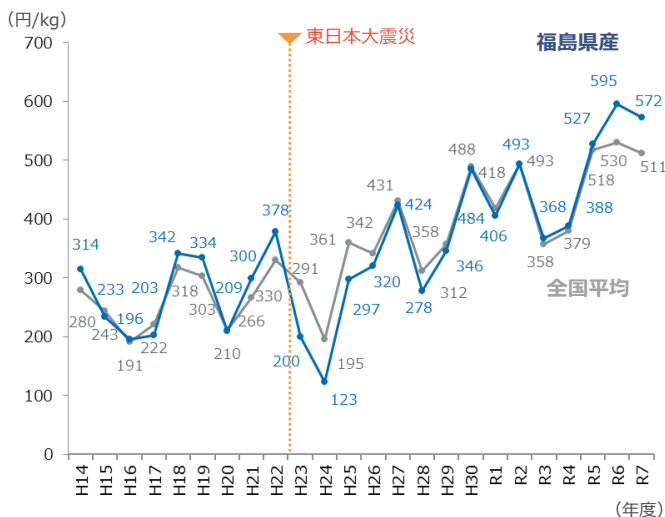
4. 各取引段階の“価格”の変化

398

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの価格の概況（全国平均との価格差）

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの平均単価は、震災以前は概ね全国平均を上回っていたが、震災直後は全国平均を大きく下回った。平成29年度以降は、徐々に差が縮小し、令和7年度は11.9%と大幅に全国平均を上回った。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

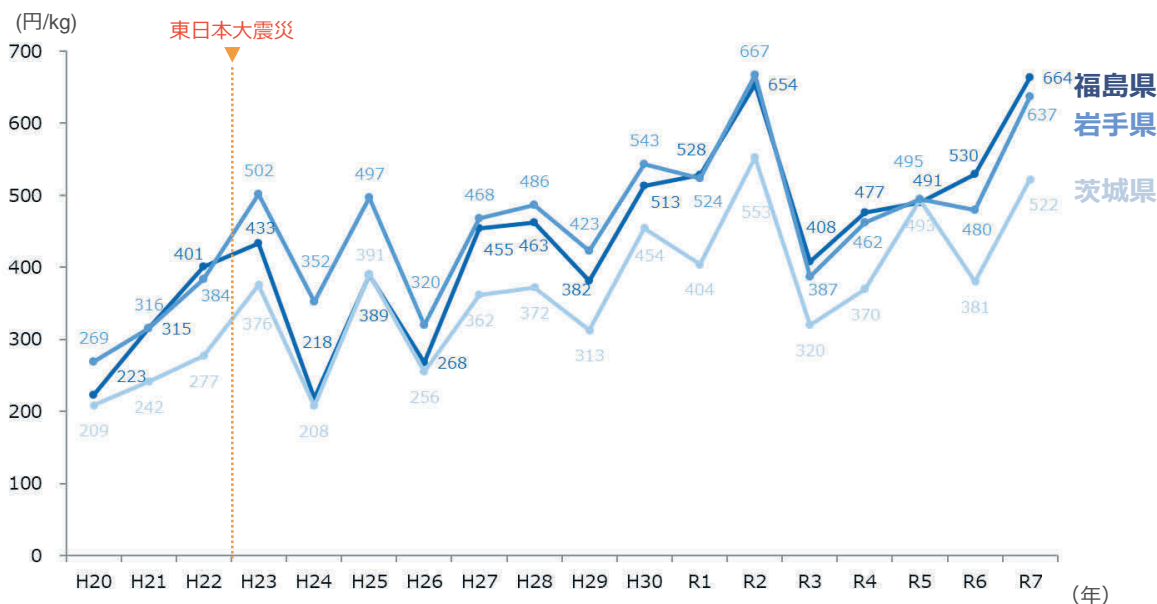
※ピーマンの震災前3年は年度差が大きかったため、他品目で調査している期間よりも更に遡って調査した。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」（7～9月の平均価格）

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの単価の推移（7月）

東京都中央卸売市場における7月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後しばらくは岩手県産よりも低い水準で推移していたが、平成27年以降ほぼ同程度の水準となり、令和6年以降、福島県産が岩手県産及び茨城県産を上回っている。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価（7月）

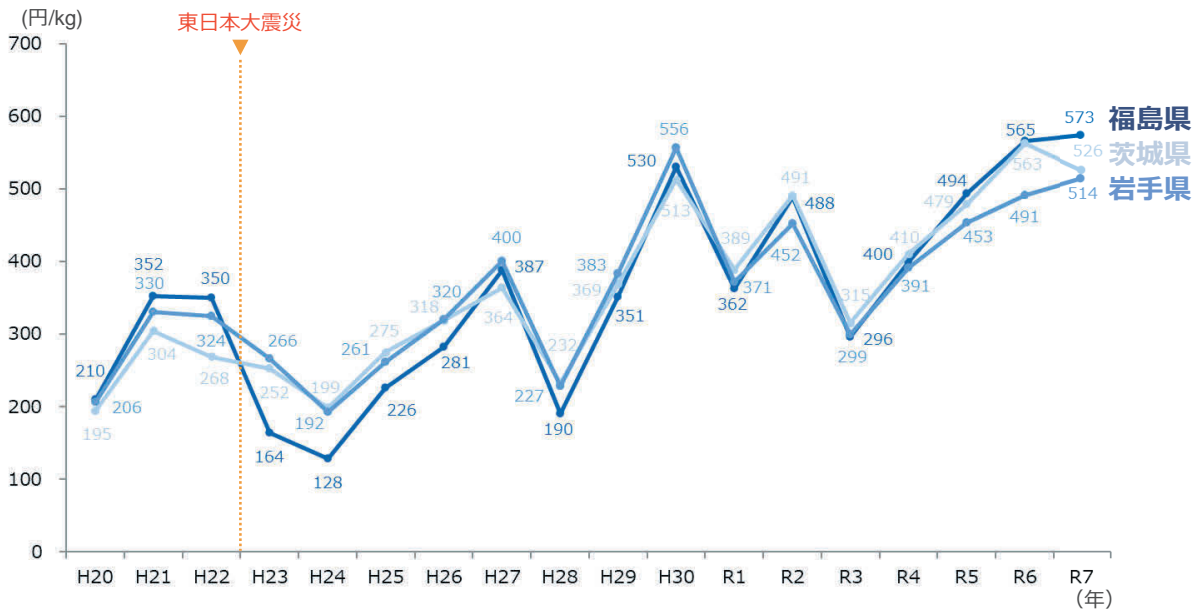


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの単価の推移(8月)

東京都中央卸売市場における8月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後しばらくは岩手県産・茨城県産よりも低い水準で推移していたが、令和5年以降、福島県産が岩手県産及び茨城県産を上回っている。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価(8月)



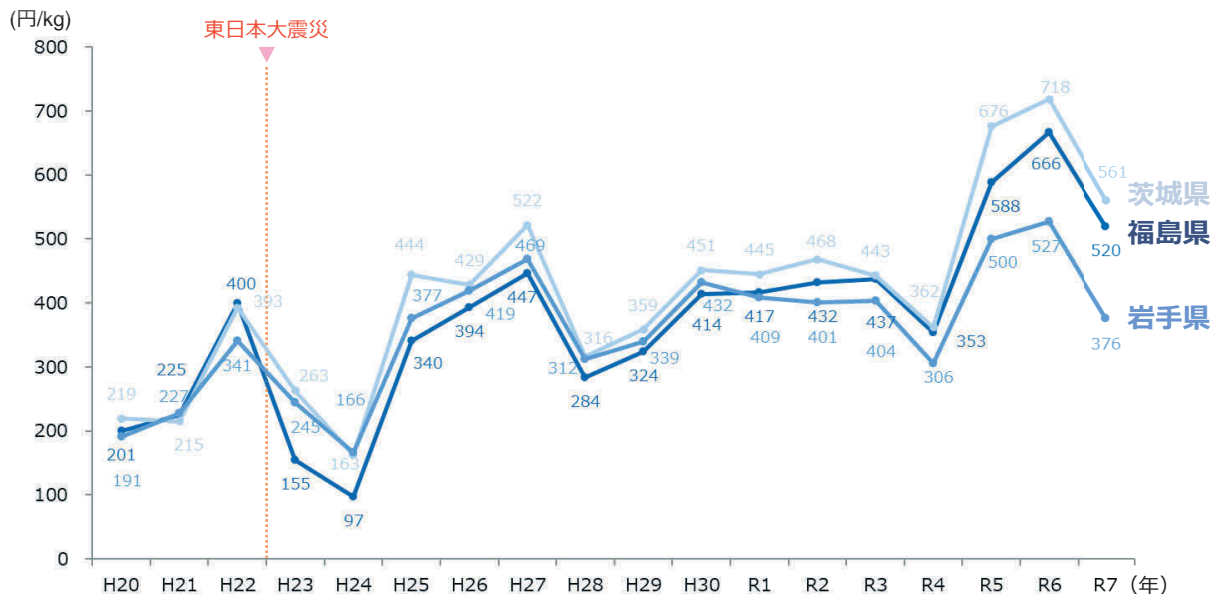
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

401

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの単価の推移(9月)

東京都中央卸売市場における9月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後しばらくは岩手県産・茨城県産よりも低い水準で推移していたが、令和元年以降は、岩手県産の平均価格を上回るようになった。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価(9月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

402

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンのシェア及び価格の推移の状況は以下のとおり。

		市場におけるシェア・価格の推移
東京都中央卸売市場	シェアの推移	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産ピーマンのシェアは、震災前から大きく変動しておらず、7月は7%前後、8月は15%前後、9月は12%前後のシェアで推移している。 7月はシェア1位である茨城県産のシェアが減少傾向にある一方で、岩手県産のシェアがやや増加傾向にある。8月はシェア1位である岩手県産のシェアがやや増加傾向にある一方で、茨城県産・福島県産のシェアは概ね横ばいになっている。9月のシェアは震災前から岩手県産・茨城県産のシェアが上位を占めており、福島県産のシェアは概ね横ばいになっている。
	価格の推移	<ul style="list-style-type: none"> 7月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後は岩手県産よりも低い水準で推移してきたが、平成27年以降ほぼ同程度の水準となり、令和6年以降は岩手県産・茨城県産の水準を上回っている。 8月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後は岩手県産・茨城県産よりも低い水準で推移してきたが、令和5年以降は岩手県産・茨城県産の水準を上回っている。 9月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後は岩手県産・茨城県産よりも低い水準で推移してきたが、令和元年以降は岩手県産を上回っている。

403

価格形成に関する事例調査(追跡調査)の概要

価格形成に関する事例調査(追跡調査)を行い、福島県産ピーマンの価格形成に関する分析を実施した。

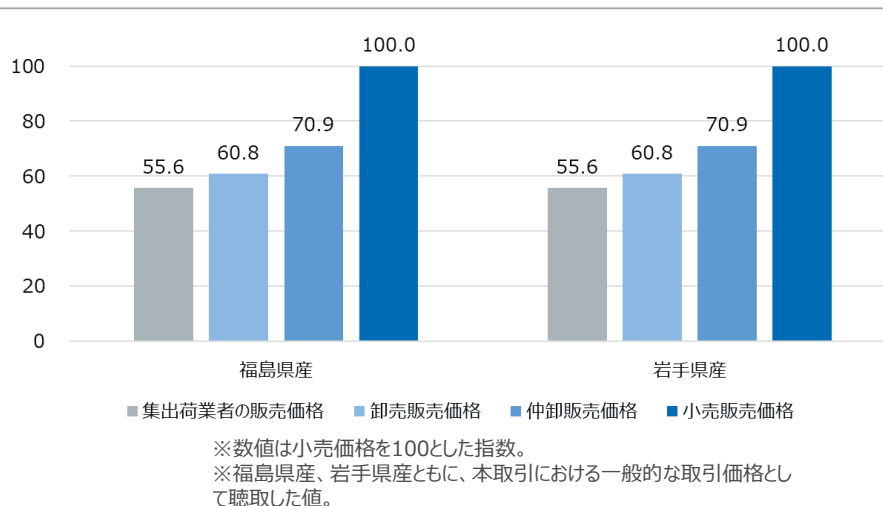
概要	
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る情報を収集し、価格形成の実態を把握する。 他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
対象商品	<ul style="list-style-type: none"> 袋入り150gのピーマン
対象期間	<ul style="list-style-type: none"> 期間：令和7年8月
調査ルート	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏の小売業者へ流通するルート：2ルート <ul style="list-style-type: none"> うち1ルートでは競合県産の価格データも収集。 福島県内の小売業者へ流通するルート：1ルート

404

ピーマンの価格形成事例 1

- 首都圏の小売業者が扱うピーマンの事例。
 - 本事例の小売業者は特売時を除き、調査時期にピーマンの販売価格を固定していた。
 - 卸売業者は委託手数料率8.5%で委託販売していた。そのため集出荷業者の販売価格は、卸売販売価格に比例している。
 - 福島県産と岩手県産の価格形成を比較すると、取引価格はすべての段階で同一であった。
 - 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定。
 - 卸売業者と仲卸業者の販売価格も基本的に産地によって変えてはいなかった。

ピーマンの価格形成事例 1

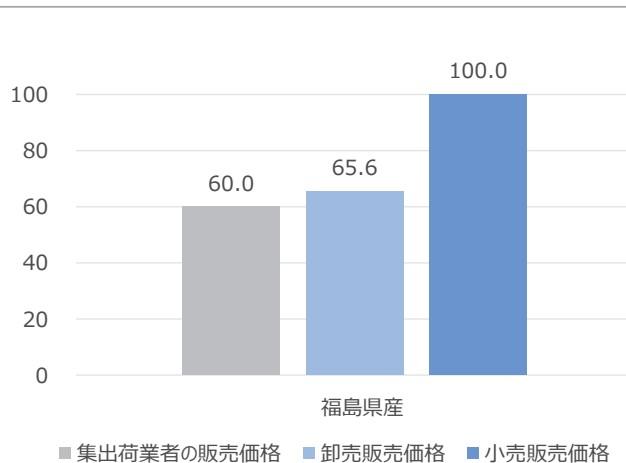


405

ピーマンの価格形成事例 2

- 首都圏の小売業者が扱うピーマンの事例。
 - 小売業者の販売価格は相場によって変動していたが、卸売業者は委託販売をしており委託手数料率は8.5%で固定。
 - この事例では卸売業者が仲卸業者を通さず、直接小売業者に販売している。
 - 事例 1 と同様に、集出荷業者の販売価格は卸売販売価格に比例している。

ピーマンの価格形成事例 2

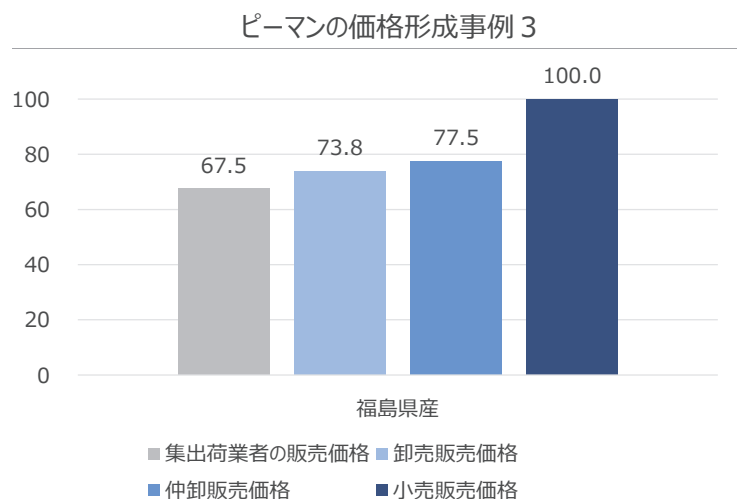


※数値は小売販売価格を100とした指数。
 ※8月の1か月間のデータを集計した。

406

ピーマンの価格形成事例3

- 福島県内の小売業者が扱うピーマンの事例。
 - この事例では、小売業者は価格設定を店舗に任せており、店舗によってマージンは異なる。
 - 仲卸業者は、常に卸売業者からの仕入価格に5%を乗せて小売業者に販売。
 - 卸売業者は委託販売をしており、産地によらず委託手数料率は8.5%で固定。
 - 事例1、2と同様に、集出荷業者の販売価格は卸売販売価格に比例する。



※数値は小売価格を100とした指数。
※8月の1か月間のデータを集計した。

407

ピーマンの価格形成事例分析のまとめ

いずれの事例でも卸売業者は委託販売をしており、集出荷業者の販売価格は卸売業者の販売価格に比例していた。また、競合産地との比較では、価格形成に違いは見られなかった。

- 各事例の共通点として、集出荷業者の販売価格は卸売販売価格に比例していた。
 - すべての事例で、卸売業者は委託販売をしており、委託手数料率は8.5%で固定されていた。
 - 事例によって小売業者や仲卸業者のマージンは異なるが、それらに関わらず、集出荷業者の販売価格は卸売業者の販売価格に比例している。
- 今回調査した事例では、競合産地との違いは見られなかった。
 - 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定していた。また、卸売業者や仲卸業者のマージンも、競合産地と同一であった。

408

主に福島県産の取扱状況、価格差の要因、市況等について、福島県内・県外の事業者の計6件にヒアリングを行った。

調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 訪問によるヒアリング
調査時期	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年7月～8月
対象品目	<ul style="list-style-type: none"> ピーマン
ヒアリング対象者	<ul style="list-style-type: none"> 生産団体 : 2件 (以下、生産団体A、B) 卸売業者 : 3件 (以下、卸売C、D、E) 仲卸業者 : 1件 (以下、仲卸F)
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産の取扱状況、価格差の要因、市況等

ヒアリング結果 (福島県産への評価)

福島県産に対する評価として、出荷量の少なさが指摘された一方で品質は他産地産と比べても高いという評価であった。また、販促については他産地産よりPRが少ないという意見や販促よりも後継者不足対策に注力すべきという意見があった。

ヒアリング結果

出荷量の少なさ	<ul style="list-style-type: none"> 福島産は出荷量が少ないので、何もしなくても既存の取引先に売れていく。もっと量があれば新たな売り込みもできるだろうが、現状は新たな売り込みをするほどの量がない。(卸売C) 現在の福島県産の供給量では需要量を賅っていない状況。現時点では、JA福島さくらのピーマンはブランド力があるため、引き合いがある。しかし、量販店は数量が安定している産地を好むため、品質が良く、数量が安定している産地が今後出てくれば、福島県産から他産地に切り替える可能性もある。(卸売E)
品質の良さ	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産は灌水施設が整備されていることが多いため、液状化が発生しにくく評価が高い。加えて、色味が良いため、数量がもっとあれば販売しやすい。(卸売D) 福島県産はJA福島さくらの選果基準が厳しいため、夏場も品質を保っており、他産地と比べてクレームが少ない。福島県産は引き合いが強く、安定した販売ができています。(卸売E)
販促に関する方針の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県産や茨城県産は売り込みや販促が多い。福島県はあまりPRをしていない印象がある。福島県も他産地のように積極的に販促をしたらよいのではないかと。(卸売C) ピーマンに限らず福島県によるPRは、東北の中でも大きく実施している産地だと思う。ただ、マーケティング費用を削ってでも後継者不足の対策に比重を置くべきでないかと思う。(卸売D)

ヒアリング結果（価格差の背景）

福島県産に限らず、単価を上げるためにはシェアの高さが重要という意見があった。また、一般的に作が新しい産地の価格が高くなるため、作型が違う産地同士で価格を比べるのは難しいという意見があった。

ヒアリング結果

シェアの違い	<ul style="list-style-type: none">ピーマンにおいて単価を上げるには、品質よりもどだけのシェアを占めているかが重要となる。福島県産は品質が良いが数量は少ない。一方で岩手県産はここ5～6年で奨励品目になっていることもあり、シェアが伸びている。（卸売C）<ul style="list-style-type: none">そのため、茨城県は他産地と出荷時期がかぶらないようにしていると思う。8、9月よりも10月のほうに出荷時期をずらしている。（卸売C）
作型の違い	<ul style="list-style-type: none">他産地との価格差について、競合となる産地（茨城県等）と福島県産は作型が異なり、また出荷時期も異なるため、同じ条件では無く比較することが難しい。出荷時期が始まる産地の方が必然的に価格が高い。（卸売D）一般的に産地に関わらず、出荷時期が始まる産地の価格は高い。茨城県産は福島県産や岩手県産の出荷が終わる時期に生産が始まる産地であるため、シーズン開始直後の現在は、福島県産よりも価格が高くなる。（卸売E）



生産団体B

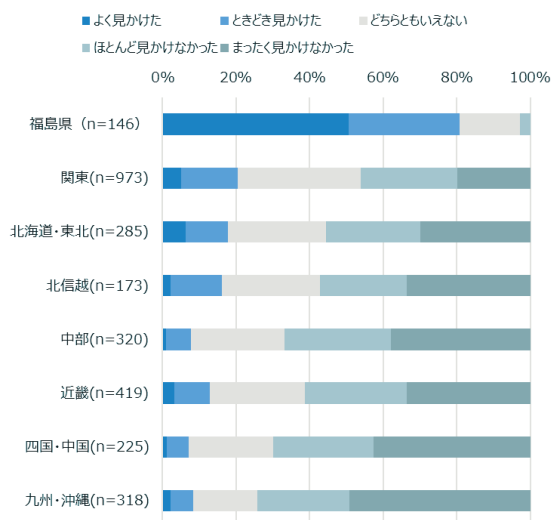
出荷開始時期を早め、年間通して販売できるように、管内全体で30～50a程度のハウス栽培をしている。

5. 福島県産品に対する認識

福島県産ピーマンを見た経験と購入経験（消費者アンケート）

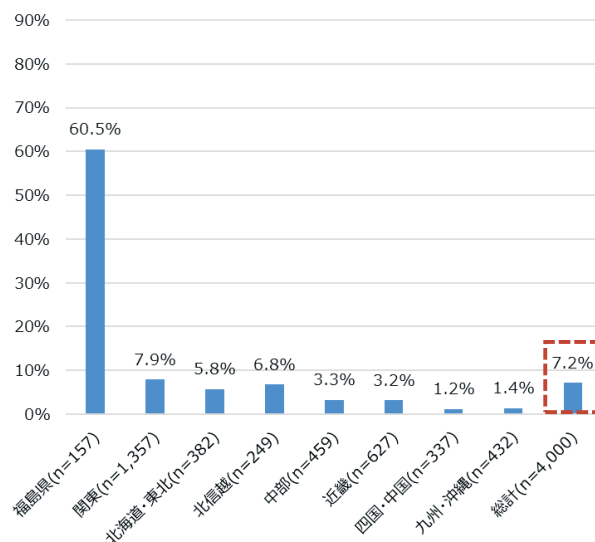
福島県産ピーマンを店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が最も高く、他の地域では10%に満たない。福島県産ピーマンを購入したことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では7.2%であった。

福島県産ピーマンを店頭で見かけたか



※過去1～2年に、店頭で福島県産ピーマンを見た記憶を尋ねた。
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産ピーマンの購入経験率



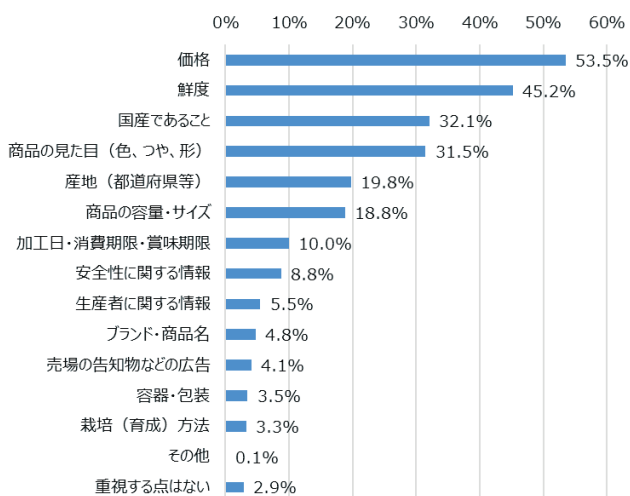
※購入経験率=1度でも購入したことがある人数/回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っただけは購入経験なしとなる。

413

ピーマン購入時の重視点と福島県産ピーマンの購入者の評価（消費者アンケート）

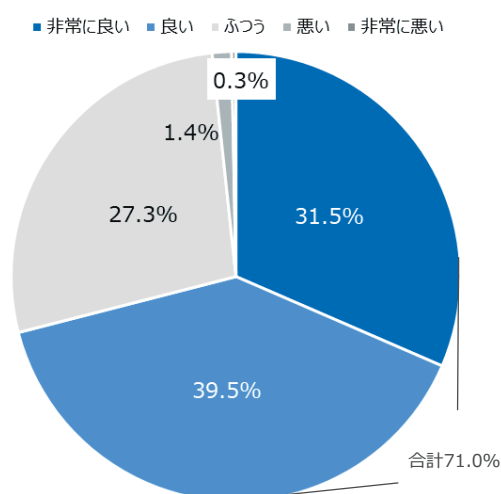
福島県産に限らずピーマン購入時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「鮮度」があがった。福島県産ピーマンの購入者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が71.0%であった。

ピーマン購入時の重視点 (n=3,100、複数回答)



※ピーマン購入時の重視点は、福島県産に限らない質問。
※月に1回以上ピーマンを購入している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産ピーマンの購入者の評価 (n=286)



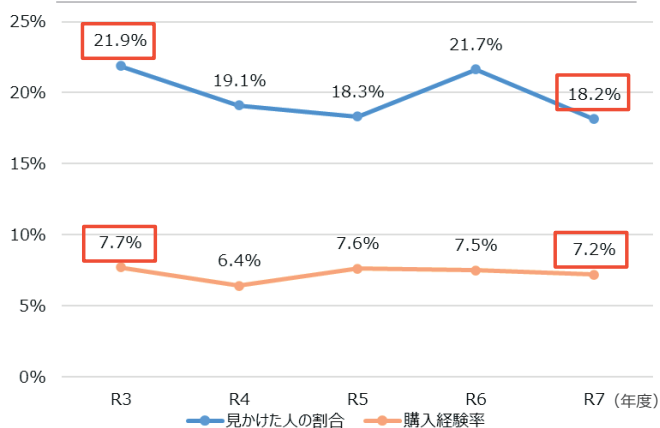
※福島県産ピーマンを購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。

414

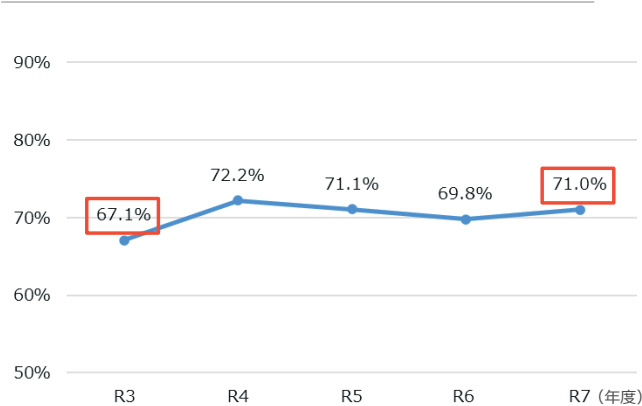
福島県産ピーマンを見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

令和3年度と令和7年度を比較すると、福島県産ピーマンを店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ3.7%、0.5%下降し、福島県産ピーマンの評価として「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は3.9%上昇した。

福島県産ピーマンを見かけた人の割合、購入経験率



福島県産ピーマンを高く評価している人の割合



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産ピーマンを見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
 ※見かけた人の割合のnはR3:7,722、R4:3,556、R5:2,804、R6:2,586、R7:2,859。
 nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
 ※購入経験率=1度でも購入したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていけば購入経験なしとなる。
 ※購入経験率のnはR3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000、R7:4,000。

※福島県産ピーマンを購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
 ※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
 ※nはR3:851、R4:352、R5:305、R6:301、R7:286。

6. 調査のまとめ

福島県産ピーマンに関する調査により明らかになったこと、それにより考えられる今後の方向性は以下のとおりである。

調査で明らかになったこと

- 福島県産ピーマンの価格は、近年は全国平均を上回っている。
- 福島県産ピーマンは、主要地域の卸売市場の中では、主に首都圏で取り扱われており、関西圏での流通は僅かである。北海道や名古屋といった地域にはほぼ流通していない。
- 事業者アンケートでは福島県産ピーマンのイメージとして「見た目が良い」「食味が良い」「品質が安定している」が選択された割合は茨城県産・岩手県産よりも大きかった。
- 事業者ヒアリングでは福島県産に対する評価として、出荷量の少なさが指摘された一方で品質は他産地産と比べても高いという評価であった。
- 福島県産ピーマンを購入したことがあると認識している消費者の割合は過去 5 年間で横ばい傾向にある。

残った今後の方向性

- 現状、首都圏以外の市場に出荷できるだけの供給量がないことから、販路拡大に向けては生産量拡大が必要となる。
- 福島県産は他産地産と比べても品質の良さは評価されていることから、品質の良さは強みとして維持することが重要である。



卸売

ピーマンにおいて単価を上げるには、品質よりもどれだけのシェアを占めているかが重要となる。

417